

平成28年度事務事業評価シート(27年度実績)

◎基本情報

事務事業名	救急医療対策事業		担当部署	健康福祉部 健康政策課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市小児救急医療支援事業 補助金交付要綱	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で 生きがいを感じる まちづくり	事業 期間	開始	昭和 ▼ 52 年度
政策(中項目)	1	ひとにやさしく健康で安らげるまち なんと			終期
(小項目)		保健・医療			
施策	7	健康・医療対策の推進			
基本事業	4	医療の充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	市民が安心できる地域医療を確保するため、夜間休日在宅当番医制度の維持・存続や二次救急・小児救急の医療の体制を確保する。						
事業計画	27年度に何を計画していたか	平成26年度に継続して実施 災害時の医療救護所の物品を3個購入し、災害時に医療救護所として予定する施設に配置を行う。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	単位
		軽度の救急搬送率	32	32	32	32	32	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	27年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	災害時に医療救護所として予定する施設に配置を行うために、災害時の医療救護所の物品を4個購入した。 啓発活動として、出生届時に「小児救急ハンドブック」を、乳幼児健診においては「上手なお医者さんのかかり方」を配布している。 鳴門市医師会と委託契約による夜間・休日在宅当番医制度を実施し、市の広報誌、ウェブサイト等で掲載した。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		26年度実績	27年度実績	28年度目標	29年度目標	30年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	啓発活動(出前講座・連携事業)	4	1	3	3	3	件
	2							
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	軽度の救急搬送率		35	37	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)			86.5	—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり		事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	0	0	0	15,582	15,582
		全体予算額	0	0	0	0	16,005	16,005
		決算額	0	0	0	0	15,781	15,781
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,859千円/人)	臨時職員(2,071千円/人)	総人件費		総事業費		
	0.1	0.0	686		16,467			

【事務事業名：救急医療対策事業】  
(千円)

事業費推移	年度	26年度決算	27年度決算	28年度	29年度	30年度
	事業費	14,030	15,781	17,039	17,039	17,039
	うち一般財源	14,030	15,781	14,314	14,314	14,314
	人件費	688	686	686	686	686
	総事業費	14,718	16,467	17,725	17,725	17,725

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		市民の安全・安心を守るという点から考えると、本事業は有効である。
	効率性	A:効率的だった		医師会、救急告示病院に委託して実施することは効率的である。
②成果に対する評価	指標名	軽度の救急搬送率		軽傷者の救急搬送率を低下させるという点では、目標値までに到達してはいるが、高齢化が進んでいる中で、徳島県内では、軽症搬送率が徳島県内13消防本部の中でも上位であり、近隣市町に比べても低い状態である。
	目標	32	%	
	実績	37	%	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		市民に対して、救急医療に関する情報提供や啓発活動を継続して実施することが必要である。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	市民の安心・安全を守るために救急医療対策事業を継続していくことは重要である。しかし、地域の開業医の高齢化等により、夜間・休日在宅当番医制度の存続に関して、市医師会と協議や検討を進めていくことが重要である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	平成28年度	医師会からの要望もあり、協議のうえ、夜間・休日在宅当番医制度の見直し等検討を行う。 市民に向けて救急医療の現状について積極的に情報提供を行っていく。			
	平成29年度	平成28年度に継続して、医療機関と連携し、救急医療対策事業を実施。			